

山形県スポーツ推進計画（H30～R6）の令和5年度の施策評価

基本方針1 生涯を通して楽しめるスポーツ活動の推進

【施策目標】 ライフステージに応じ、楽しみながら「する」「みる」「ささえる」スポーツの推進とその環境整備を行う

数値目標		後期改定計画 策定時実績	最新値	数値目標に対する評価・検証
成人のスポーツ実施率（週1回以上） （週3回以上）	60% 30%	35.2%（H28） 16.7%（H28）	49.9%（R4） 23.8%（R4）	<ul style="list-style-type: none"> H28年度35.2%から、R4年度49.9%となり着実に実施率は向上しているが、目標値までには達していない。 さらなる実施率の向上を図るためには、スポーツ実施率の低い、女性やビジネスパーソン等を対象とする事業の実施が必要である。 R5参考値：週1回以上47.0%、週3回以上24.9%（スポーツ庁調査から本県分を抽出） <p>※本計画における数値は県政アンケート調査に基づくもの</p>
総合型地域スポーツクラブが行う活動への参加者数	増加させる	21,300人 （H29）	37,044人 （R4）	<ul style="list-style-type: none"> H29年度21,300人から、R4年度37,044人となり、増加目標を達成した。 市町村からの委託事業である高齢者介護予防事業等への会員外の参加が増加した。 高齢者介護予防事業を未実施のクラブに対して、受託できるように引き続き働きかけが必要である。
子ども（小学生）のスポーツ実施率 （1日60分以上）	60%	44.7%（H29） 〔男子：54.7%〕 〔女子：34.4%〕	39.4%（R5） 〔男子：49.5%〕 〔女子：28.9%〕	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの影響と考えられる実施率の著しい低下に歯止めがかかりつつある。 体育授業等での楽しい経験から、スポーツが好きな児童を増加させ、子どものスポーツ実施率向上につなげることが必要である。
スポーツや運動が「嫌い」・「やや嫌い」である中学生を減らす	10%以下	14.7%（H29）	15.8%（R5）	<ul style="list-style-type: none"> H29年度14.7%から、R5年度15.8%と横ばい傾向となっている。 体力や障がいの程度に関わらず、スポーツをする楽しさや喜びを味わえる体育授業を推進するとともに、学校、家庭、地域が連携し運動やスポーツに親しむ環境づくりを推進していく必要がある。
令和5年度取組状況				令和6年度の主な対応
<p>1-1 幼児期から高齢期までライフステージに応じて楽しめるスポーツ機会の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合型地域スポーツクラブと市町村などとの連携 <ul style="list-style-type: none"> ▶県スポーツ・レクリエーション祭の開催（競技会部門：18競技1,933人 交流会部門：4地区129人） ▶市町村の高齢者介護予防事業を受託しての運動プログラムの提供（県内受託クラブ数：16） 障がい者と健常者の交流の促進 <ul style="list-style-type: none"> ▶障がいの有無に関わらず参加できる体験型の障がい者スポーツ教室を実施（4地域計26回） <p>1-2 学校の体育・運動部活動に関する活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒がスポーツをする楽しさを味わえる体育授業等の提供 <ul style="list-style-type: none"> ▶教職員を対象とした各種研修会を開催、指導資料の作成 ▶全国学校体育研究大会山形大会を開催し、豊かなスポーツライフの実現に向けた研究授業を実施 「教員の働き方改革の推進」と「生徒にとって望ましいスポーツ環境の構築」を旨とした部活動改革の検討 <ul style="list-style-type: none"> ▶部活動の指導を担う部活動指導員の配置（中学校94校112人、高校11校17人配置） ▶山形県部活動改革推進協議会を開催し、部活動改革の進捗状況や今後の取組みについて、関係者と意見交換を実施 ▶実証事業の推進や部活動改革市町村コーディネーター情報交換会の実施 <p>1-3 スポーツに関わる人材の育成と場の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> スポーツ指導者研修会等の開催による指導者や運営スタッフの資質向上 <ul style="list-style-type: none"> ▶スポーツ指導者研修会（県スポーツ協会と共催）（参加者 285人） ▶スポーツ少年団による指導者研修会（参加者 88人） ▶スポーツ少年団によるスタートコーチ養成講習会（参加者 335人） ▶研究大会（県スポーツ推進委員協議会と共催）（参加者 299人） 県民のスポーツへの興味関心を高め、スポーツ人材の活躍推進のため、山形県スポーツ賞を授与（授賞者数 101名、7団体） 				<p>【スポーツ機会の提供】</p> <p>スポーツ・レクリエーション祭において多様な種目を設けるため競技会部門への新規参入団体を募り、参加者数の増加及びスポーツ実施率の向上を図る。</p> <p>【総合型地域スポーツクラブの登録認証制度】</p> <p>未登録クラブが登録要件を満たす公益性の高いクラブとなるよう、研修会等による支援の充実を図る。</p> <p>【体育教員等の指導者の資質向上】</p> <p>各地区の実態に応じた研修会を開催し、多くの教員の体育授業の指導力向上を図る。また、各学校の児童生徒の実態に応じた体力向上の取組「1学校1取組」の充実を図ることで、「体育授業が楽しい」「運動やスポーツをもっとしたい」と思う児童を増加させ、子どものスポーツ実施率向上につなげる。</p> <p>【部活動改革体制整備事業】</p> <p>引き続き、実証事業を実施し、中学校における休日の部活動の段階的な地域移行に向けて取り組みの推進を図る。</p> <p>部活動指導員配置の拡充を進め、教員の働き方改革の推進とともに、生徒にとって望ましいスポーツ環境の構築を進める。</p> <p>【資質の高い指導者及び運営スタッフ等の養成】</p> <p>県スポーツ協会や県スポーツ推進委員協議会等と連携し、引き続き、指導者やスポーツ推進委員等への研修を実施していく。また、スポーツ指導者情報システム「リーダーバンクやまがた」への登録を促進する。</p>

基本方針2 トップアスリート育成に向けた支援・強化策の確立

【施策目標】 ジュニア期からトップレベルに至る体系的な人材の養成システムの構築及びスポーツ環境の整備により、国際大会や全国大会で活躍する選手を数多く育成する

数値目標		後期改定計画 策定時実績	最新値	数値目標に対する評価・検証
オリンピック・パラリンピックでのメダリスト	輩出	—	1名 (R3)	・ 東京2020オリンピックに5名、北京2022冬季オリンピックに6名の選手が出場し、その中から待望のメダリスト(スピードスケート競技500m銅メダル)を輩出することができた。
国体の天皇杯順位	全国20位台	31位 (H29)	43位 (R5)	・ R5年度は、43位となったが、R6年2月に本県で開催された冬季大会スキー競技会「やまがた雪未来国スポ」では、20年ぶりに全国第4位となった。 ・ 成年の部におけるふるさと選手の積極的活用、得点源となり得る団体種目に特化した強化や少年の部の競技団体が中心となった強化活動を推進している。 ・ 競技団体との更なる連携を図り、成年選手の動向を確実に把握し、少年選手の早期の選抜チームの結成や一貫指導体制等、環境の充実を図っていくことが必要である。
インターハイ入賞数	夏季：40以上 冬季：15以上	60 (H29) 26 (H29)	40 (R5) 15 (R5)	・ インターハイ入賞へ向けて、学校間の垣根を越えて競技全体での強化策を講じるなど、県高体連と連携し、目標を達成した。
令和5年度取組状況				令和6年度の主な対応
2-1 メダリスト育成への支援・強化策の確立 <ul style="list-style-type: none"> 国民体育(スポーツ)大会等において優秀な成績を収めるため、競技団体が行う選手・指導者強化育成に要する経費について支援 パラリンピック又はデフリンピックを目指す選手へ大会出場経費等を支援 2-2 ジュニア期からトップレベルに至る戦略的支援の充実・強化 <ul style="list-style-type: none"> 「YAMAGATA ドリームキッズ」の発掘・育成(15期生として新たに30人認定) 国体やインターハイ、国際大会等で活躍する選手の強化 <ul style="list-style-type: none"> ▶修了生・在籍生の国際大会・全国大会での活躍(ビアスレ・トライアスレ世界大会第2位、インターハイ カヌー競技第1位等) 2-3 スポーツにおける誠実性・健全性・高潔性(インテグリティ)の向上 <ul style="list-style-type: none"> スポーツ団体のガバナンス強化やドーピング防止活動の実施 <ul style="list-style-type: none"> ▶競技団体コーチングスタッフ会議及び競技団体ヒアリング等での指導 				【オリンピックメダリスト育成事業】 メダリスト輩出に向けて、遠征や練習環境を整えるための支援を継続する。 【山形県スポーツタレント発掘事業】 競技団体等と協力しながらジュニアアスリートの発掘・育成システムの継続的な推進を図る。 【学校体育団体を通じた競技力向上】 引き続き県中体連及び県高体連を通して指導者育成、有望選手の発掘・育成を行う。 【拠点クラブ型ジュニア強化事業】 拠点となる施設で、継続的な合同強化練習会や強化事業等を実施し、ジュニア世代(中・高生)の一貫した強化を行う。 【コーチング基礎強化事業】 研修会開催や中央競技団体への研修、トップチームやトップ指導者への派遣、及び上位大会視察等を実施し、指導者育成を図る。

基本方針3 スポーツを通じた活力ある地域社会の実現

【施策目標】 スポーツを通じた地域の活性化を目指し、地域資源、プロスポーツ及びスポーツイベント等の積極的活用並びにアスリートの活躍の場の拡充を推進する

数値目標		後期改定計画 策定時実績	最新値	数値目標に対する評価・検証
ホストタウン交流事業への参加者数	8,000人	8,500人 (H29)	10,732人 (R3)	・ 東京2020オリンピック・パラリンピック時はコロナ禍であったが、オンラインなど工夫を凝らしてホストタウン交流イベント等が開催され、多くの県民が参加した。 ・ 大会終了後も、ホストタウン登録自治体において、地元住民と相手国との交流事業が実施された。
令和5年度取組状況				令和6年度の主な対応
3-1 プロスポーツの活用、スポーツツーリズムの展開等による地域の賑わいづくりの推進 <ul style="list-style-type: none"> プロスポーツチーム等への支援及び連携による地域づくりの推進 <ul style="list-style-type: none"> ▶プロスポーツチーム等によるスポーツ教室をはじめとした地域貢献活動への補助を行った。 スポーツイベントの開催やスポーツツーリズムの展開等による交流の拡大 <ul style="list-style-type: none"> ▶山形県スポーツコミッションによるスポーツイベントの開催、スポーツ施設・宿泊施設等の情報提供、県内で合宿を行うスポーツチームへの補助を行った。 3-2 スポーツ施設等の整備と地域資源の有効活用 <ul style="list-style-type: none"> 県内に唯一の競技スポーツ施設整備への支援(蔵王ジャンプ台、山形市総合スポーツセンタースケート場等) 3-3 アスリートの県内定着・回帰及び活躍の場の拡充 <ul style="list-style-type: none"> 企業スポーツ振興協議会による企業チーム及び選手への支援 				【プロスポーツ支援事業、スポーツ振興・地域活性化推進事業】 プロスポーツ団体への支援やスポーツイベントの開催を通して、引き続き、県民がスポーツに触れる機会を提供していく。 【スポーツ施設整備支援事業(市町村総合交付金)】 引き続き、県内に唯一のスポーツ施設について支援するとともに、政府に対して財政支援の拡充を要望していく。 【企業スポーツへの支援と連携】 引き続き企業スポーツ振興協議会による支援を実施し、関係団体と連携しながら、アスリートが活躍できる場の拡充を図る。